

第6章 教育課程及び履修方法等

(試験)

第12条 履修した授業科目については、試験を行い学業成績を考査する。

(学修の評価、成績評価基準及び単位の授与)

第13条 学修の評価は次の基準によりA、B、C、及びDに分け、A、B及びCを合格とする。

点 数	評 価	
100～80	A	合格
79～70	B	
69～60	C	
59以下	D	不合格

2 合格した授業科目については、所定の単位を与える。

修士論文審査の基準について

＜修士修了基準＞

地域・文化学研究にふさわしいテーマを選び、修士論文の目的にかなった手法を用い、論理的にまとめる能力を持つこと。

＜修士論文の評価＞

研究課題や方法について明確な意識を持ち、修士論文として十分な研究成果を挙げているかどうかを評価する。

＜修士論文審査基準＞

修士論文の審査は次の基準に基づき行うこととする。

1. 研究テーマの設定と方法
 - ① 研究テーマと研究内容が一致しているか。
 - ② 問題意識が明確であるか。
 - ③ 研究方法等が適切であるか。
2. 論文の構成
 - ① 論文の構成と展開が妥当であるか。
 - ② 論理展開や結論への導き方に無理や誤謬がないか。
3. 研究内容と改善点
 - ① 論文内容に誤りや事実誤認がないか。
 - ② 新たな知見が認められるか。
 - ③ 改善すべき点はどこか。
 - ④ 研究の将来性はあるか。
4. 評価と結論
 - ① 適切な日本語又は外国語で記述されているか。
 - ② 研究内容の記述に対して、図表・資料、引用文献・参考文献が適切に表記されているか。
 - ③ 修士論文として一定の学術レベルに達しているか。
 - ④ 修士論文にふさわしい研究成果が認められるか。

＜評価＞

合 ・ 否

修士論文体裁について

1. 修士論文の作成について

- ①枚数：400字原稿用紙に換算して100枚以上とする。

（注を含む。参考文献（資料）目録、付帯資料集を除く）

ただし、文章作成ソフトの「文字カウント機能」を用いた場合は、スペースを含む文字数を400で割った数が100以上であることとする。

なお、必ず表紙に換算した枚数を明記すること。場所はどこでも可。

- ②書式はA4版とし、原則として文章作成ソフトを使用する。

- ③表記は別紙のとおりとする（題名は20ポイント、その他は15ポイント）

2. 修士論文の提出について

- （1）提出期間は、学年暦を参照

- （2）論文の提出部数

論文本体及び要旨を4部提出する。

※提出時にはクリップで仮止めして提出すること。

3. 保存用提出

修論審査合否判定後大学院保存用（1部）を提出する。その際、デジタルデータをWordとPDFの2つの形式でUSBに保存し、提出すること（USBは返却できませんので、ご注意ください）。

指導教員と相談して適切な体裁（縦書き、横書きの別を含む）を決めること。